おひざのうえで

（副園長の子育ておうえん通信）（2020 年４月）

せんりひじり幼稚園
副園長　　安達かえで

「こんなことを悩んでいます」シリーズ⑤

「兄弟げんか」

あと少ししたら登園・・・と思って頑張ってきましたが、また、休園が伸びそうで、がっかりです。先が見えない、先が読めない・・・って不安ですね。

そんな中ですが、今日は「毎日、兄弟でもめてばかりで疲れます。」というお悩みを、いただいたので、一緒に考えていきましょう。

下の子が小さい場合や、上の子が小学生の場合など・・・兄弟の年の差によっても喧嘩の種類は違ってきます。

下の子が小さい場合は、どうしても下の子をかばってしまいますよね。お兄ちゃんお姉ちゃんが楽しそうに遊んでいるのを見て、つい触ってみたくなるのは当然。けれども、上の子にしたら「邪魔をされた」とか「せっかく遊んでいるものを取ろうとする」と思って、「ダメ！」と下の子を叩く⇒下の子泣く⇒親は上の子を叱る・・・のようなストーリーってよくありませんか。

上の子が小学生の場合は、上の子が遊んでいるものを、使いたくてまたは一緒に遊びたくて、上の子の了解も得ずに使うまたは取る⇒上の子怒る⇒下の子泣いて親に訴える⇒上の子親に叱られる・・・というストーリーもよくありませんか。

先日「すくすく子育て」で、お茶の水女子大学の宮里先生が、「どちらかの所有物

で遊ぶとよくもめるけれども、誰のものでない共有の物を使って遊ぶと、ケンカにならないのでは？」というお話がありました。確かに、砂場やボードゲームなど、みんなの物で遊ぶときは、もめ事は起きにくいですね。また、東京大学名誉教授の汐見先生は、「兄弟ケンカにはどっちが悪いなんてないんですよね。」とのこと。だから、親が兄弟のどっちが悪いかを審判しなくていい。子どもの気持ちを「そうだったの。」と、共感してあげるだけでいいとのことです。

今は、毎日兄弟姉妹が長時間一緒にいるので、ケンカが起きるのは当然です。本来なら、幼稚園に登園し、友達との遊びの中でぶつかり合い、そして考えながら生活をしている頃です。私たち保育者は、このぶつかり合いや困った状況が成長のチャンスと捉えます。「どうやったらうまくいくか・・・」、「どう言えば相手はわかってくれるか・・・」、「相手はどんな気持ちだったかな・・・」などを考えるきっかけになります。そして思いやりの気持ちや社会性や問題解決力が育ちます。親は傍にいてしんどい場面かもしれませんが、心にしこりが残るような不公平なケンカ以外は、子どもの考えるきっかけになると思って目をつぶりましょう。平和で波風のない満たされた生活もいいものですが、少しぐらいもめたり、不都合があったり、思い通りにいかないぐらいの方が、考える力が育つと思いますよ。子どもが困った状況も必要。親子ケンカもやっちゃっていいと思います。人は困ったときに、頭を使って考え、工夫したり気持ちを切り替えたりします。満たされてばかりでは、考える必要がなくなりますから。

・・・